

**スティグマを負った移民や難民の女性に
Faith Based Organization はどのような力となれるのか
福嶋 美佐子**

法政大学大原社会問題研究所客員研究員

**How can Faith-based Organizations (FBOs) Help
Stigmatized Immigrant and Refugee Women?**

FUKUSHIMA Misako *Hosei University*

キーワード: 移民・難民、スティグマ、Faith Based Organization (FBO)

1. 研究の背景

世界的な新型コロナウイルス (COVID-19) パンデミックにおいて、社会的に脆弱な立場の人ほど、既存のセーフティネットから疎外されたと言われている。この間、ドメスティック・バイオレンス (DV) 等の被害者である移民・難民の女性は、どのようなスティグマを負ったのか。また、Faith Based Organization (FBO) は、彼女らにどのような力になれたのか。キリスト教系団体をケーススタディとして状況を分析した。

2. 先行研究

巢内 (2021) は、ベトナム人技能実習生の調査から、コロナは従来の技能実習生の問題を顕在化させたにすぎないと分析する。伊東 (2022) は、非正規雇用中心の日系南米人の脆弱な経済基盤が、コロナ禍により一層顕在化したことを通じ、日本人住民のアンコンシャス・バイアスが浮き彫りにされたことを指摘する。川本 (2021) は、以前から続けられてきた難民・移住者による活動はコロナ禍においてもやりがいと尊厳を保つことを見出している。

国外においても DV が深刻化している(Duncan et al. 2020, Uzobo et al. 2021) も、FBO の果たす役割は不明である。一方、Santibañez et al. (2022) は、米公衆衛生当局が FBO と効果的に連携し、多様なコミュニティに不可欠な教育と緩和手段を提供できたことを示唆するが、移民や難民に注目しているわけではない。

3. 研究課題

日本の政府が移民や難民の受け入れに積極的とはいえない中、その受け入れや社会統合において民間団体の努力に負うところは大きい。また、FBO がどのような支援を行ってきたかも、徐々に明らかになっている。しかし、日本では社会関係資本の薄い外国人女性がどのようなスティグマを負ったのか、そのような社会的弱者に対し FBO は何ができ、何ができなかったのかを分析することは、今後の日本の外国人受入政策を考える上で意義あることと考え、ケーススタディとしてシェルターを運営するキリスト教系 FBO を採り上げ、資料ならびに役員への聴取調査に基づき分析を行った。Goffman (1963=1980) を基に、スティグマを「身体的、精神的、社会的あるいは複合的な要因により偏見をもたれた結果、人間としての尊厳を貶められる負のイメージ」と定義し、2020 年と 2021 年の COVID-19 感染拡大期において、

- ① DV 等の被害者である移民や難民の女性は、どのようなスティグマを負ったのか
- ② スティグマを負った移民や難民の女性に対し、FBO はどのような力となったのかについて明らかにすることを目的とする。

4. 結果と考察

シェルターを利用する背景は時代と共に移り変わっているが、感染拡大前の社会的スティグマに加え、拡大期からは行政によるセーフティネットからも疎外された。社会的スティグマは、大きくは性的搾取によるものと DV 被害によるものである。シェルターに助けを求める女性は、感染拡大により、それまでは多少は保たれていたサポートネットワークからも切り離され、孤立することとなった結果、特別定額給付金やワクチン接種に見られるような枠組みからも疎外され、より複雑かつ克服が困難な状況に陥ったと思われる。

シェルター開設の目的である安全確保、人間関係回復、問題共有、健康回復、自立準備の場だけでなく、時を提供し続けた。シェルター内で平穏な日常を提供することは、心身共に追い詰められた者に

平安を与える。また、セーフティネットの情報すら得られない彼女らのためにスタッフが奔走することは、経済や公衆衛生面で援助になるだけでなく、自分も社会の一員として認められているという自覚につながる。

感染拡大期に支援を続けられたのは、役員、職員、ボランティアの強い使命感と、それを支える資金である。この強い気持ちの捉え方は役員間で異なり、「使命感」と表す者も、「(信仰に基づく)シスターフッド」と表現する者もいる。

*本報告は、公益財団法人平和中島財団 2021 年度研究助成金『コロナ禍にみるアジア社会文化の検証-スティグマ問題への取り組みをめぐる国際比較研究』(研究代表者:阿部哲) の研究成果の一部である。

参考文献

- 伊東浄江, 2022 「コロナ禍における外国人集住地域での支援現場からの報告:支援者の立場から見る共生の課題と困難」移民政策学会『移民政策研究』第14号, 190~199頁
- 川本文, 2021 「コロナ禍よって見えてきた難民・移住者をめぐる課題」全泓奎編『分断都市から包摂都市へ:東アジアの福祉システム』東信堂, 290~303頁
- 巢内尚子, 2021 「コロナ以前/以降の重層的困難と連帯の可能性 -ベトナム人技能実習生への調査から」鈴木江理子編著『アンダーコロナの移民たち -日本社会の脆弱性があらわれた場所』明石書店, 52~73頁
- Duncan, Thomas K, Jessica L. Weaver, Tanya L. Zakrison, Bellal Joseph, Brendan T. Campbell, A. Britton Christmas, Ronald M. Stewart, Deborah A. Kuhls, and Eileen M. Bulger, 2020, Domestic Violence and Safe Storage of Firearms in the VOCID-19 Era, *Annals of Surgery* 272(2) p.55-57
- Goffman, Erving.1963, *Stigma: Notes on the Management of Spoiled Identity*, Simon & Schuster. New York: NY. ゴッフマン,アーヴィング, 1980 『スティグマの社会学-烙印を押されたアイデンティティ』石黒毅訳,せりか書房
- Santibañez, Scott, Ashley Ottewell, Paris Harper-Hardy, Elizabeth Ryan, Heidi Christensen , Nathaniel Smith, 2022, A Rapid Survey of State and Territorial Public Health Partnerships With Faith-Based Organizations to Promote COVID-19 Vaccination, *American Journal of Public Health* 112(3) p.397-400
- Uzobo, Endurance and Aboluwaji D. Ayinmoro, 2021, Trapped Between Two Pandemics: Domestic Violence Cases Under COVID-19 Pandemic Lockdown: A Scoping Review, *International Quarterly of Community Health Education*. (<https://journals.sagepub.com/doi/10.1177/0272684X211022121> 2022年10月1日アクセス)